

ひとの幸せと 自分の幸せが 繋がる会社

私はいま「チームビルディング」の専門家として、未来へ向け躍動する組織を実現するサポートをしています。私の考えるチームビルディングは「個人の強みや長所を最大限に活かす組織づくり」。1+1を2ではなく∞に可能性を拡げるための支援をし、組織全体のパフォーマンスを引き上げていく、ここに生きがいとやり甲斐を感じています。「人の成長と可能性に寄与する」という想いから2019年にスクエア合同会社を立ち上げました。社名には「広場・まっすぐ立つ・四角形・数字の4」という4つの意味と想いを込めています。「広場」は、人が集まり心地よく行き交う場所になる。「まっすぐ立つ」は「スクエアに立つ」というゴルフ用語から、人が目標に向かってまっすぐ立つ手助けをする。「四角形」には「安心感・信頼感・基盤」という意味があり、自分自身がそんな存在になる。「数字の4」には縁をもたらすという意味があり、人の幸せと自分の幸せが繋がる会社になる、そんな想いを込めています。

「未来から時間を流す」考え方で私は人や組織を応援しています。つまり今いる地点の延長線上で未来を考えるのではなく、理想の未来を想像して、その未来に戻っていくように行動すること。この考え方は成長を加速させ可能性も拡がっていくと感じています。末廣さんの「未来の自分に似合う装いを先取りする」と通じています、その話をする、数年前友人に勧めら

れて「装いの影響力」を読んだときには、直感で末廣さんにスーツを作ってもらっている未来の臨場感を持ったので、レディースブランドを立ち上げられてこうして末廣さんに仕立てていただいた服を身に纏い、クライアント先に行って組織開発に関われていることをとても嬉しく思っています。

組織の成長は人の成長があつてこそ。そのためにも「組織の中に対話の文化をつくる」ことがとても重要だと捉えています。そのアプローチとして、ワークにより自己認識や他者理解を深めたり、未来を想像して語り合いながらワクワクする時間を共有したり、今の時代に求められている部下との関わり方を学ぶことで自身をブラッシュアップしてもらい、チームの信頼関係を醸成していきます。その基盤をつくった上で「短期的で明確な目標をしっかりと設定し行動すること」も人と企業の成長促進には欠かせません。クライアントさんは、中小企業で規模感は様々、職種も商社・製造業・士業・IT関連業・サービス業など多岐に渡っています。どの企業様も、もつと社内コミュニケーションをとって良い仕事ができるチームにするにはどうしたらいいのか？管理職や若手を育てるにはどうしたらいいのか？という悩みを持たれている点が共通しています。それぞれの企業の本質的な課題や経営者のお悩みに合わせて打ち手を考え、オーダーメイドで人材育成の体系を構築しています。

意味のないことは
起きないと
今になって感じます

運動が好きで、小学5年生の時から熱中したのがバスケットボール。高校は

理想の未来を想像して、その未来に戻っていく

